令和7年度〔 自己評価報告書 〕

学校番号	学 校 名	校 長 名
5	川崎市立川中島小学校	後藤　美智子

学 校 教 育 目 標	今年度の重点目標
川っ子は　かしこく　やさしく　自分らしく 考えを深めていく子（かしこく）　分かり合う子（かしこく） 仲間を大切にする子（やさしく）感じる心・感謝の気持ちを大切にする子（やさしく） 自信をもてる子（自分らしく）　前向きに行動できる子（自分らしく）	・学ぶことの楽しさ、つくりだす喜びを実感できる授業づくり ・互いのよさや違いを認め合い、思いやる心の育成 ・主体性・協働性を育む特別活動の展開 ・進んで集団に関わることを通して、物事の善悪をきちんと判断し、ルールを守る規範意識の育成 ・学校が好き、自分が好き、友だちも好きと思える子の育成（自己肯定感を高める学校、学級づくり）

	評 価 項 目	具 体 的 な 取 組	成 果 と 課 題	具 体 的 な 改 善 策
1	きめ細やかな学習・学習形態の工夫	算数については、3年生から少人数指導を導入することで、少人数指導の充実を図った。視覚的な教材を導入し、学習に困難が見られる子への配慮を行いました。 学年によって、教科担任制やチームティーチング、習熟度別学習を進めるなど、子どもたちのニーズに合った学習を検討し、実践を進めました。	各教科において、児童の疑問や思いなどをもとにしながら学習を行っている。その中で児童の「できた」「わかった」がアンケート結果から9割を占めていることから学力の定着へと繋がっていると考えます。さらに「わかった」「できた」が増え、学習の楽しさを感じられるように一人一人の実態を把握し個別的な支援を大切にしていきたいと考えます。しかし、保護者の方との回答とのズレがある気共通理解を進めていくことが重要だと考えています。	引き続き、きめ細やかな指導を心がけて、わかる・できると感じる授業づくりを目指していく。また、GIGAスクールの設備が整い5年目となります。GIGAの特性を生かし、主体的に学習へ取り組めるよう個別最適な学びや協働的な学びができる授業を推進していきます。引き続き、少人数教室の継続や交換授業により担任が他のクラスの教科を行い教材研究の時間を確保しチームとして学習面でサポートしていきたいと考えています。
2	図書活動の推進	図書司書を中心に図書ボランティアが、図書室の整備、季節にあった掲示物、図書の紹介などを行った。各学年実態にあった読書指導の方法を検討し、取り組んみました。	読み聞かせや読書が好きという児童が低学年では8割以上となっているが、高学年になると8割を下回る結果になりました。もっと図書に触れる機会をつくっていく必要性があると考えます。	学校と家庭の連携、地域との協力を進めることを通して、今後も読書意欲を高める取り組みを進めていく必要があります。学校図書司書の存在を最大限活用し、子どもたちが様々な本に触れられるようにするとともに、図書ボランティアの方の活動を継続していただきつつ、教員も読書に時間を確保したり、読み聞かせを今後も実施していただきます。読書から得られる知識のみならず、情操や感性を豊かにする読書にさらに興味がもてる児童を増やしていけるようにしていきます。
3	子どもの自己肯定感を高める	子どもが主役の学校を目指し、子どもたちが生き生きする授業作り、地域と繋がり発信していく教材開発・見直し。児童指導・支援の推進を中心に子どもたちが自分の良さを見つけ、共に支え合えるような関係作りに力を注いできました。各学年目標にも自己肯定感が高まるような目標を設定してもらい具現化を図りました。	児童の8割以上が学校が楽しいと感じている良い評価となりました。この結果から多くの児童が楽しく学校に通えていることが伺えます。少数の楽しくないと回答した児童にも丁寧に声をかけていく必要があり、学習や学校生活全般を通じて楽しいと感じる場面を工夫し、保護者や地域のご協力を得て、支援の充実を図っていく必要性があります。	自己肯定感を高めていくことが子どもたちの学力や生活力の向上につながっていくと考えます。子どもたちはよいところを認めてもらったり、友達や身近な大人のためになっていると感じたりすることで自己肯定感が高まります。今後も、学習や係・委員会活動等で自分が頑張っていると感じたり、役にたっていると感じたりする経験を積み重ねられるよう、保護者とともに全教職員で支援を進めていきます。
4	進んで挨拶する子どもたち	朝会や朝の会を通して、あいさつの大切さを指導しています。今年度も隔週の金曜日にPTAボランティアによる挨拶運動も行われました。また、児童の委員会活動でもあいさつ運動を企画し、実施しました。	アンケートでは、8割以上の児童が進んで挨拶をしているという結果となりました。毎朝登校する際には、元気に「おはようございます」と、挨拶する児童が多くいます。また、来校者や地域の方が歩いていると、「こんにちは」と声をかけられる姿も多く見られます。さらにどの児童も進んで挨拶を行い、気持ちよくコミュニケーションをとることができるように、大人も進んで挨拶する姿をさらに見せていく必要があると考えています。	これからも学校や地域で挨拶できるよう、挨拶の大切さを朝会や学級指導で伝えていきます。 代表委員会や高学年が呼びかけることで意識が高まったので継続していくいきます。
5	異学年交流・なかよし班活動	異学年交流「なかよし班活動」の内容を精選し、児童の絆が深まる取り組みを実践しました。 異学年交流として1年間を通し、様々な交流活動を進めてきました。 なかよし班活動では、例年通り小さなグループ単位で活動を行いました。	なかよし班活動によって、異学年交流を楽しんでいる児童は8割以上と多くいました。何よりも、6年生が学校のリーダーとしての自覚が芽生え、主体的に頑張り、成長が感じられることが大きな成果でした。	異学年交流の良さを再認識し、なかよし班活動の場面だけでなく行事や日常の学習場面でも交流が進むように、多様な機会と方法を検討していきます。保護者の方にもフリー参観のときに様子を見てもらえているので、継続していくことが望ましいと考えています。これからも充実した異学年交流を内容を充実し継続していきたいと考えています。

6	事件・事故に対応する活動	自然災害や事件、事故への対応として、自分自身の身を守るためにはどのように行動すればよいかを自ら判断し、行動できるように指導を進めています。防災訓練では津波や予告なし等の様々な場面を想定した訓練を行うことで、自主的に行動する力の定着を確認することができました。コミュニティでも防災学習を行い、災害時の対応や準備しておくとよいものなどを確認することができました。不審者対応の訓練も行い、不審者の侵入時の安全確保についても学びました。	公道の歩行の仕方や自転車の乗り方については、日常的に指導し、特に年度初めや長期休みの前には、時間をかけて指導をしています。また、自分自身の身を守る方法を学ぶ場として、1・3年生は毎年交通安全教室を開催しています。交通安全に関しては、常日頃の声かけが大切になってきます。引き続き、学校でも交通安全の呼びかけや指導を行うとともに、登下校時には見守り活動の方々にも協力をいただきながら事故防止に努めていきます。	外部機関（警察・交通安全協会など）とも連携して交通安全の意識を高めていく活動を模索していきたいと考えています。防災訓練については、いつも決まった日時に行うのではなく、様々なケースを想定し実施していきます。防犯訓練も継続して行うことでより柔軟な対応ができるように、訓練の方法や場面等を検討し、継続して行っていきます。
7	環境の整備（清掃）	全校で清掃の方法について同じ指導をし定着してきました。みんなで使う場所を清掃する大切さを各学年なりに伝え活動してきました。	9割以上の児童が学校をきれいに保とうとする意識を持っていることがアンケート結果から伺えます。生活目標を通して全校で意識して取り組んできたり、委員会活動できれいな学級を表彰したりすることで、意識が高まったと考えられます。進んで学校をきれいにしていると回答した児童は多くいますが、日常の学校生活ではゴミが落ちていても避けて素通りしている児童も見かけられました。	きれいな過ごしやすい学校を重点目標において取り組んでいきます。学年によって清掃の仕方に大きく違わないように共通理解を図っていきます。引き続き、保護者との清掃を行う機会を設け、児童の清掃への意欲に繋げていきたいと考えています。また、教職員が率先してゴミを拾う姿を見せるたり、美化委員会による表彰等の活動を継続して意識を高めていきます。
8	コミュニティスクール	コミュニティスクールとして歴史がある学校として、地域の皆さんとともに歩む学校を目指しています。学びの支援、安全、情報発信、学校評価など、学校生活のさまざまな場面でコミュニティのメンバーがサポートしていることを学校だより等を通じて子どもや保護者に伝えてきました。コミュニティのサポートにより、地域人材の活用を活発にしたり、学校環境の向上に取り組んできています。	今年度も学習や学校行事など様々な場面で地域の方からサポートを受けることができました。児童も学校生活の中で地域の方との繋がりを感じていることがアンケート結果からも伺えます。保護者へは学校だよりやコミュニティだより、ホームページなどを活用して情報を発信し周知できるように努めてきました。	コミュニティ便りの発行や学校だよりや掲示板による広報で紹介を一層進めていく必要性があります。さらに、コミュニテイスクールとしての歴史を生かして、保護者や地域との協働を目指した会議の在り方や活動を模索しながら、チーム川中島としてのコミュニティスクールの活動を見直し、活動の工夫を検討していきたいと考えています。

学 校 関 係 者 の 評 価	学校運営のまとめ
学校評価アンケートの結果を踏まえ、次のようにコメントをいただきました。 1つ目に全体的に学校生活を楽しんでいる児童が大変多いということが伺えました。楽しくないと答えた児童は学習についていけない等が原因のこともあり先生が声掛けをしながら支援をしているそうです。皆が楽しい学校生活を送れるように地域でも協力していきたいと思います。2つ目に授業の中で「できた」「わかった」と思うことがあると感じている子どもたちが多く、達成感を得ている事は先生方の丁寧な指導によるものと思われます。勉強を難しく思っている子どもにも小さくても喜びを感じられるよう、先生方には引き続ききめ細やかな授業作りを、ご家庭では暖かな声掛けをお願いします。3つ目の読書の時間や読み聞かせの時間については、評価が少し下がったことは残念に思います。4つ目の自分の力を発揮できる支援として、低学年は挙手や当番・掃除を基に自己評価し、高学年は委員会等の役割も含め客観的な分、厳しめになることもあるそうです。必要に応じて声かけし、頑張りは適切に認め、正しい自己評価につなげていきたいとのことでした図書室は同じ児童の利用が多いので、中休みのおはなし会の回数増や環境作りに加えて、イベント企画などで先ずは本に興味をもてる児童を増やす事が大切だと考えます。5つ目には、自ら挨拶できる子では、挨拶が出来る様になってきた児童が増えているように思います。少しの時間でも話をしてくれたり、勇気を出してあいさつをしてくれたりしました。一日のスタートをハッピーにするために元気なあいさつをもっとたくさん聞けることを楽しみにしています。6つ目のなかよし班や異学年交流では、児童数の増加に伴い、なかよし班の構成人数が増えています。メンバーを取りまとめる6年生を尊敬し、自らも成長しようとする子どもたちの姿がありますので、これからも充実した異学年交流の継続を願っています。7つ目の交通ルールを守るといった安全面では、子どもたちの自己評価が高い一方、油断から軽率な行動につながらないよう注意喚起も大切です。学校では特別授業は主に1・3年生ですが、日常も教室で繰り返し声かけを行っているとのことです。ご家庭でも再確認や話し合いの機会をいただければ幸いです。8つ目の環境の整備では、子どもたちが熱心に掃除に取り組んでいる様子が伝わってきます。気持ちよく安全に学校生活を送るためには、日々の掃除が欠かせません。美化委員会による表彰活動をきっかけに、一人ひとりが環境づくりに主体的に関わり、過ごしやすい川中島小学校をみんなでつくっていけることを期待しています。最後にコミュニティのサポートについては、学校だよりでの活動報告を通して、保護者の皆さまにも周知していただいていると感じます。本校はコミュニティスクールとして平成18年度に市内でいち早く設置されました。特に目新しい活動はないですが、今後もいろいろな場面で子どもたちをサポートしてまいります。	本年度のまとめとして、本校は川崎市のコミュニティ・スクール研究指定校として19年目を迎え、「参画・協働・共汗・共創」を合言葉に、地域力をマンパワーとして今年度も「地域とともにある学校づくり」を進めてきています。学校教育目標の実現にむけてどのような取り組みが必要かなどの話し合いをもち、今年度もコミュニティと連携して 防災学習・子どもコミュニティ会議・ハッ ピーフェスタなどを行ってきました。子どもたちのより良い成長につながっていると思います。また、今年度の子どもコミュニティでは、「地域をもっと楽しくするアイディアについて考えよう川中島のまちの良いところ」をテーマに、児童とコミュニティ委員さんと話し合いを進めました。学校の教職員とコミュニティ委員の方と話し合い、川中島の街の良いところを再認識し、もっと良くしていくためにはどんなことが必要かと考え、アイディアを出すことができました。また、代表の児童が学校や地域の方へどのようにしてほしいかということも見つめ直すよい機会となりました。その他にも、学校教育目標の実現のために、学習指導要領の各教科の目標が育成すべき資質・能力の3つの柱に沿って育てたい「川中島の子どもたち」の姿を明確にして教育活動を進めてきていますので、今後も地域や保護者とともに子どもたちが主体となって考え学ぶ機会を確保し、教育目標の達成を目指していきます。具体的には、本校の教育活動で大切にしていることとして「感性を働かせることができる体験的な活動を通して、豊かな心を育てる」では、子どもたちは感動したり、驚いたりしながら「なぜ？」「どうして？」と考えを深め、実際の生活や社会、自然の在り方について学べるよう工夫をしてきています。また、「言葉を大切にした主体的で対話的な学び」では、校内研究のテーマ「なぜ？なるほど！いいね！やってみたい！ ～主体的・対話的に学ぶ子の育成を目指して～」 とし、国語の学習の時間を通して研究を進めてきています。今後も言葉を大切にしながら、自分の思いを持ち、うなずきながら共感し、自分の考えと比べて考えを広げる児童を増やしていけるよう工夫していきます。 次年度も「子どもが主役 ～子どもたち一人一人の可能性を伸ばす教育課程の創造～」とし、学校教育目標の実現にむけて、教育活動の充実を図る。特に、（1）コミュニティ・スクールとしての強みをさらに生かし、社会に開かれた学校づくりを推進していく。（2）人権意識や自己肯定感を高め、他者とともにより良い生活を目指していけるような教育活動の充実を図っていく。（3）個別最適な共同学習と探求的な学びを通じて、学ぶ喜びを感じ自ら学びを進めていくような授業を目指し、研究・研修を積んでいく。（4）教職員が心のゆとりをもって児童と向き合う時間や授業の準備の時間を確保していくことでやりがい・働きがいのある職場づくりをさらに進めていくことを教育活動の方針の中核に据えて、具体的な教育活動を工夫し、地域や保護者の方とともに推進してまいります。